

高齢者福祉関連事業の見直し

～健康長寿の姫路（まち）を目指して～

見直しの概要

背景

- ・超高齢社会が到来しており、加えて、少子化の進行による生産年齢人口（15歳～64歳）が急減する。
- ・高齢者の単身世帯や認知症高齢者が増加している。
- ・高齢者人口が増加、一方で人口全体は減少していることにより、限られた資源での事業継続が困難となりつつある。

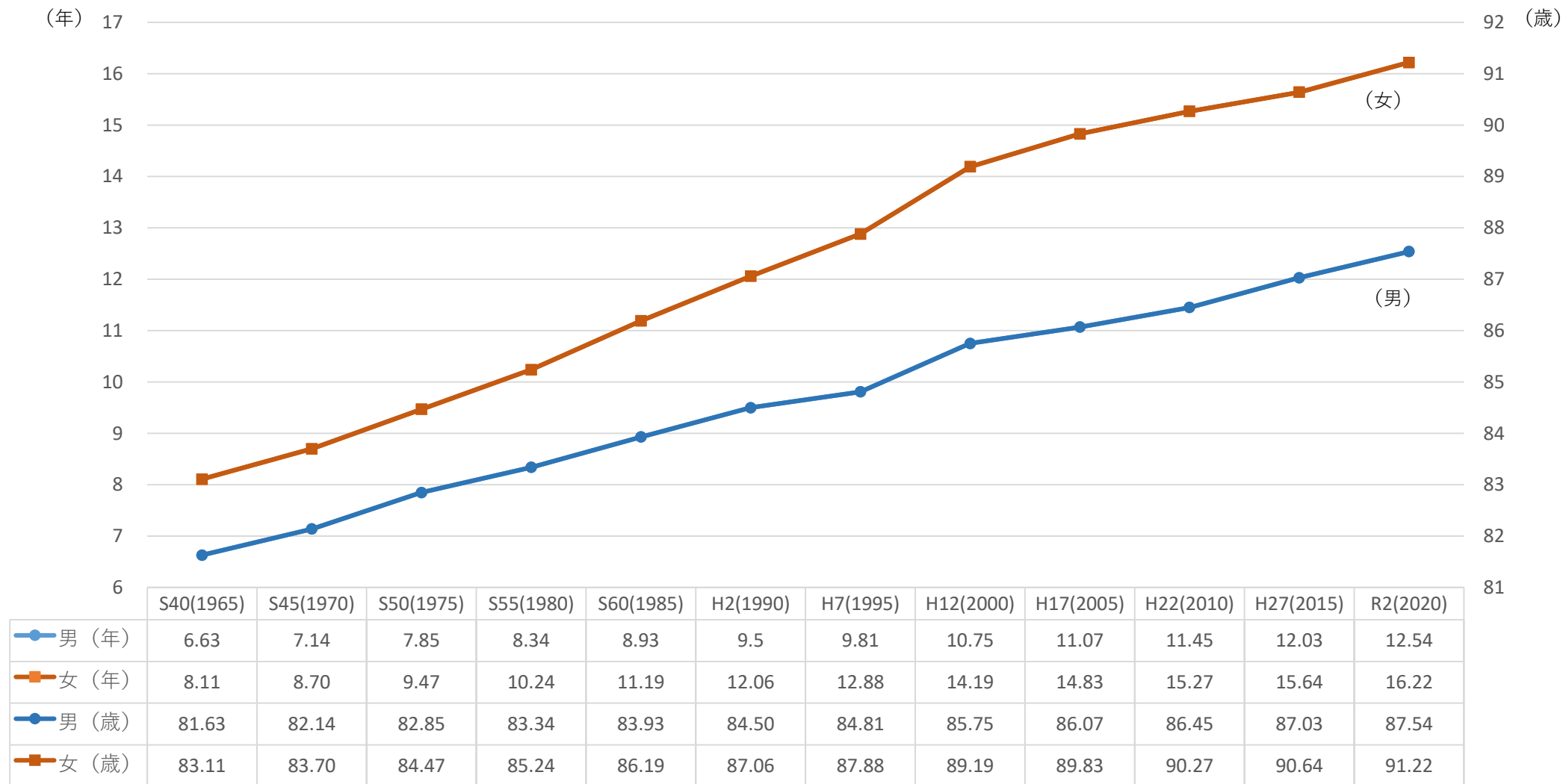
考え方

- ・一律給付型の支援から、目的・効果が明確な支援へ転換する。
- ・認知症予防、フレイル予防を強化し、高齢者が自ら取り組む習慣づくりを支援する。
- ・時代に即した事業を展開し、高齢者には難しいという考えを一新できるようなデジタル・ディバイド対策へとつなげる。
- ・いつまでも幸せに健やかに過ごすことのできる「健康長寿の姫路（まち）」を目指す。

対象事業

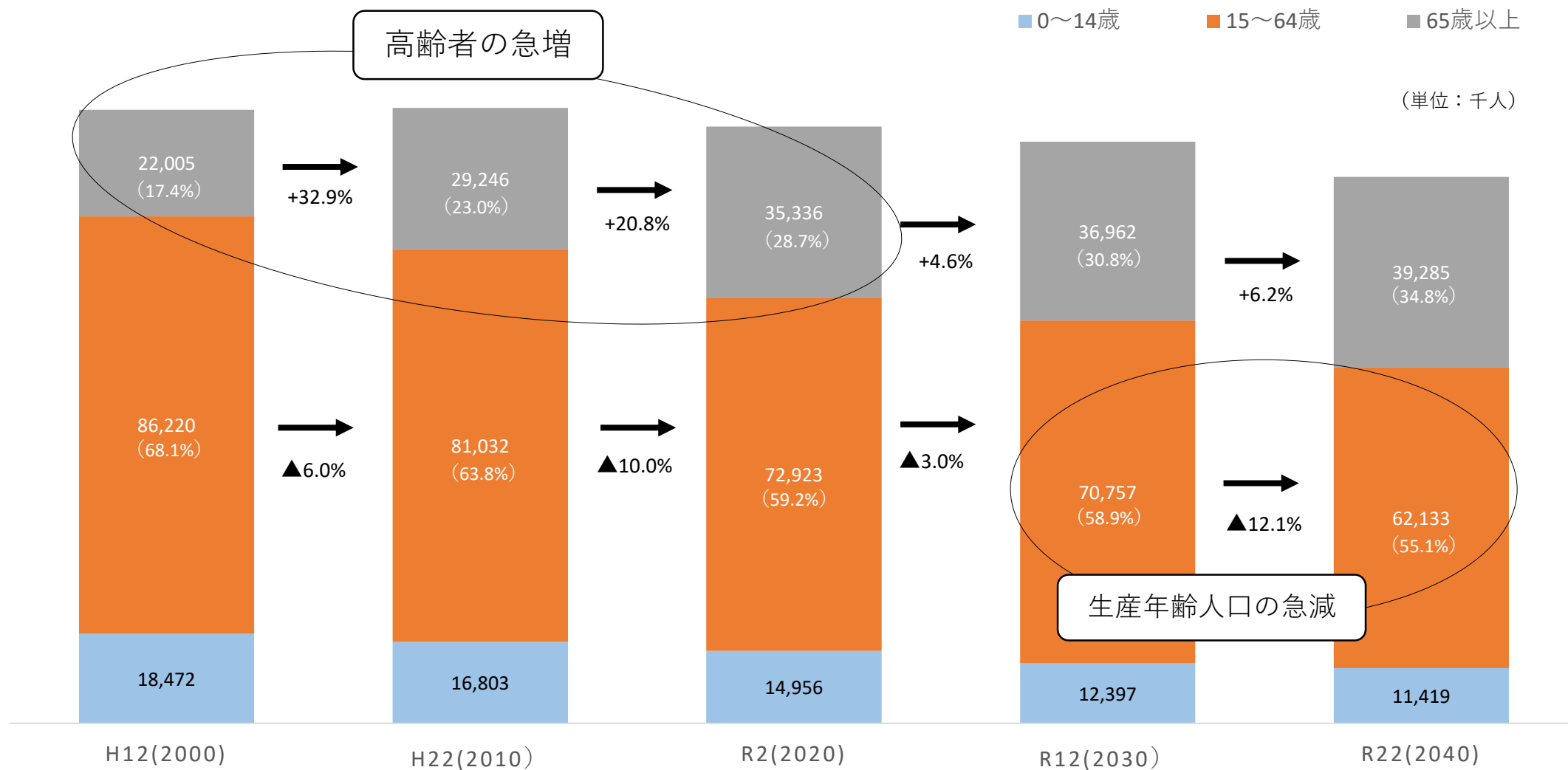
- ・在宅高齢者介護手当支給事業
- ・ひとり暮らし老人入浴サービス事業
- ・マッサージ等施術助成事業
- ・高齢者バス等優待乗車助成事業
- ・市敬老金支給事業
- ・百歳敬彰事業
- ・敬老の日の贈物事業

平均余命（75歳時点）の推移



厚生労働省「第23回生命表（完全生命表）の概況 参考資料1 主な年齢の平均余命の年次推移」

人口構造の変化

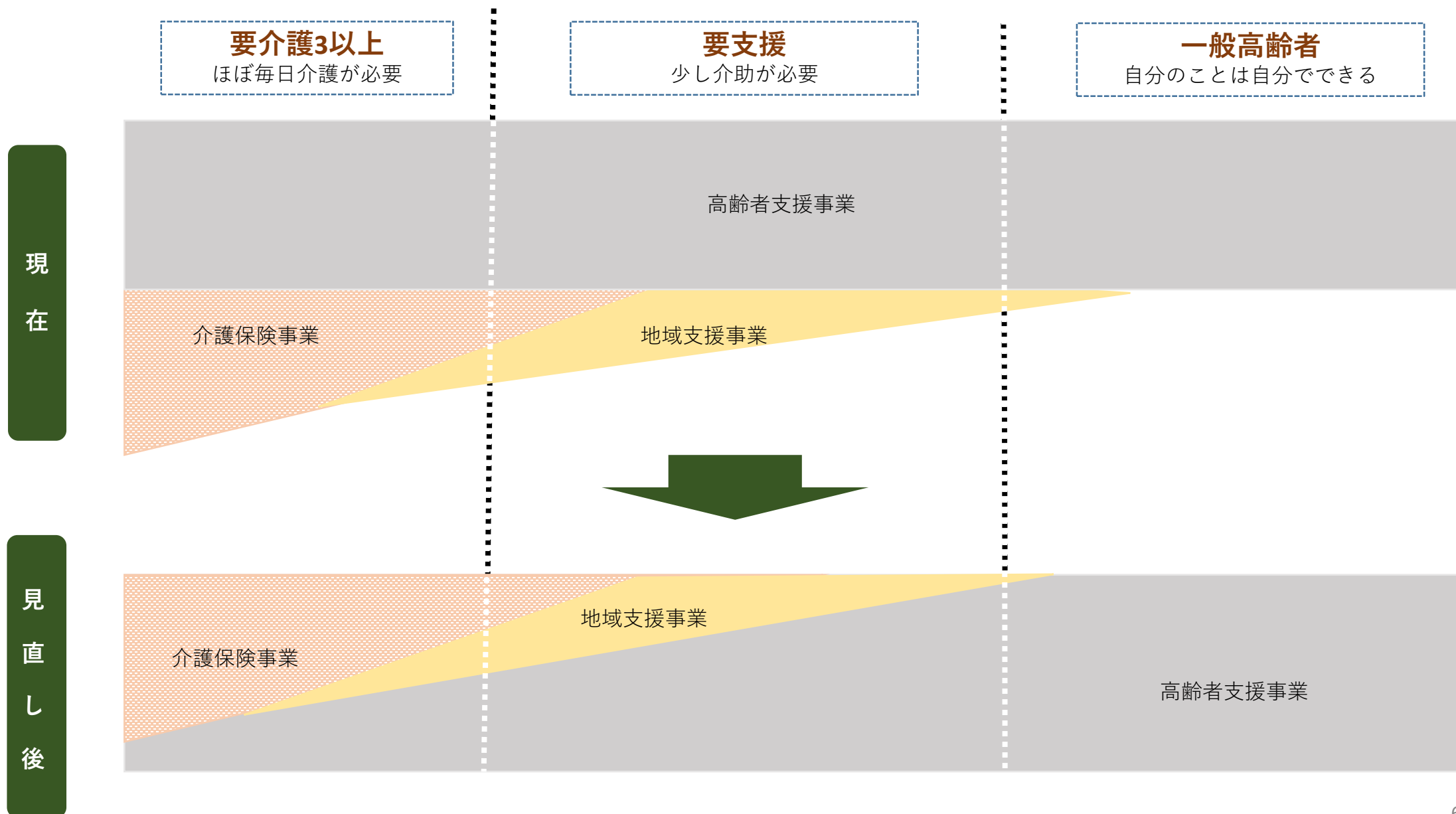


(参考) 令和5年7月10日社会保障審議会介護保険部会(第107回) 参考資料1-2(厚生労働省)を基に作成
(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 令和5年推計」

各事業の変遷



高齢者福祉関連事業のイメージ



高齢者バス等優待乗車助成事業（令和6年10月から）

現在の対象年齢 75歳以上



見直し後の対象年齢 75歳以上

交通機関	現在の助成内容
バス	1乗車50円
鉄道	ICOCAカード 年間8,000円
船舶	姫路⇄家島 乗船券8枚
タクシー	助成券500円×16枚 1乗車最大3枚まで利用可 要介護2～5の方のみ
ふくし切符	6か月 300円×24枚 (家島町に住所を有するものが島外の医療機関に通院する場合)



交通機関	見直し後の事業内容
バス	1乗車 150円
鉄道	終了
船舶	姫路⇄家島 乗船券 600円×12枚 電子チケットとの併用検討
タクシー	助成券 500円×14枚 1乗車 3枚 の利用 要介護要件撤廃 電子チケットとの併用検討
ふくし切符	6か月 600円×12枚 (家島町に住所を有するものが島外の医療機関に通院する場合)

市敬老金支給事業・百歳敬彰事業（令和6年度から）

事業名	現在の事業内容		事業名	見直し後の事業内容
敬老金	77歳 10,000円 88歳 20,000円	➡	敬老金	77歳 終了 88歳 終了
百歳敬彰金	100歳到達時 100,000円		敬老記念事業	80歳（傘寿） 新設 令和9年度から実施予定 内容検討中
敬老の日の贈物	最高齢者 記念品・花束 最高齢夫婦 記念品・花束		百歳敬彰金	100歳到達時 50,000円
			敬老の日の贈物	最高齢者 祝い状・花束 最高齢夫婦 祝い状・花束

その他の事業（令和6年度から ※在宅高齢者介護手当支給事業を除く）

事業名	事業内容	見直し後の事業内容
マッサージ等施術助成事業	【対象者】70歳以上 【内容】施術助成券 年間3,000円	【対象者】75歳以上 【内容】施術助成券 年間6,000円
ひとり暮らし老人入浴サービス事業	【対象者】65歳以上のひとり暮らし高齢者 【内容】無料入浴券 年間4枚	終了
在宅高齢者介護手当支給事業	【対象者】要介護3以上の65歳以上の在宅高齢者を介護する方 【支給金額】月額10,500円	継続検討

令和 6 年度 新規・拡充事業

事業名（案）	内 容
終活支援事業	ひとり暮らし等により、自身の葬儀や納骨等に関する心配事を抱える方に対し、協力葬儀社等の情報を提供する。また、もしもの時に備えて「緊急連絡先」や「遺言書の保管場所」等を市に登録する終活登録を行う。
認知症カフェの拡充	認知症の人やその家族同士が悩みや思いを共有し、医療系専門職に相談ができる集いの場を増設する。
軽度認知障害（MCI）への早期対応	軽度認知障害（MCI）の人を早期に発見し予防支援プログラムを実施することで、認知症への移行を防いだり発症を遅らせる。
マッサージ等施術助成事業の拡充	対象年齢を75歳以上、助成金額を6,000円に見直し、認知症チェックシート等を活用し、介護予防への取り組みを推進する。
介護支援ボランティアの拡充	介護支援ボランティアによる支援内容を拡大し、買物の付き添いを可能とする。
デジタル・ディバイド対策事業	スマートフォンの新規契約者への助成等、スマートフォンを「持つ」ことへのハードルを下げる。また、スマホサロンや、コールセンターの設置による「使う」ときの困りごとへの対応をする。
フレイル予防アプリの導入	アプリの利用により「歩く・食べる・脳トレ・社会参加」を楽しく促し、脳と身体の花康維持につなげていく。また、外出した際に、QRコードの読み取り等によりお出かけポイントを付与し、更なる外出機会の創出を目指す。